

2025.03

No. 34

工
藝

事務局（地独）京都市産業技術研究所 知恵産業融合センター（担当：松原 竹浪）

kyotonokogei@tc-kyoto.or.jp

〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町 91

Tel 075-326-6100（代表） Fax 075-326-6200（事務局）

京都工芸研究会便り

1. コラボ製品開発事業「こうげい組体操 シーズン 2」始動！

2024 年 3 月の京都ギフトショーで発表した新製品開発事業「こうげい組体操」につきまして、事業終了後には「1年で終わるのはもったいない！」とのご要望をたくさんいただき、事業企画チームでの準備期間を経て、満を持して「シーズン 2」始動しました！。3 月 24 日にはキックオフミーティングを開催し、継続のメンバーから初参加の方まで、楽しくなりそうな予感を感じました。これから約 1 年かけて、京都ギフトショーに向け、新しい「組体操」に取り組んでまいります。どうぞお楽しみに！（今からの参加も歓迎いたしますので、事務局までご相談ください）



2. 産地見学会（福井：黒龍酒造 ESHIKOTO・一乗谷朝倉氏遺跡博物館）

去る 10 月 30 日、コロナ禍が明けて久しぶりの産地見学会を開催しました。14 名の会員にご参加いただき、快晴の中、賑々しい福井旅行となりました。黒龍酒造 ESHIKOTO 様では地の利を活かして徹底したブランド戦略を学び、一乗谷朝倉氏遺跡博物館では、100 年の間に栄枯盛衰を経た稀有な史跡を拝見できました。松田委員長や山崎様のご協力された作品も展示されており、あらためて工芸研究会会員の「層の厚さ」に感じ入りました。

黒龍酒造「ESHIKOTO」



一乗谷朝倉氏遺跡博物館



3. 事業企画チーム「ロング・インタビュー」第六回を公開しました！

事業企画チームではベテランの会員さんに、工芸の技術・素材・道具だけでなく、これまでのあゆみについてじっくりとお話を伺う「ロング・インタビュー」を行っております。不定期連載を続け、今回はヒロミ・アートの野村ひろみ様を特集しました！幼い頃のエピソードや「苦労を苦労と思わない」ブレずに真っ直ぐ志を貫く大切さについて語っていただきました。読み応えのある保存版です。誌面には抜粋を掲載いたしますので、全文はテキストサイト「note」をご覧ください！

第六回：野村ひろみ 様（七宝）



野村：父に連れられて、美術館や博物館に行くのが好きな子どもでした。母が草木染めを趣味にしていたこともあって、美術が身近に感じられた環境だったと思います。歴史も大好きでした。休みになるとお寺めぐりをしていました。年寄りくさいちょっと変わった子だと思われていたようです（笑）。でもいくら美術や歴史が好きでも、その道を仕事にするのは難しいと思っていました。当時は「女性は結婚して家庭に入るものだ」という価値観が当たり前の世の中でしたから。今こうやって、大好きな美術と歴史が融合した「工芸」という仕事に携わることができているのは、幸せだと感じています。

（中略）

野村：私はどういうわけか、「これをやりたい」と強く思うと、望みどおりに自然と道が開けるといって、周囲の様々な助けをいただけるような、不思議と恵まれているように感じるんです。

編：まさに順風満帆ですね。それとも、苦労を苦労と思わなかったのかも？

野村：私は誰が何を言っても我が道を突き進む性格なので、友人から「うちらが何を言うても、あんたは全然気にせえへんなあ」と呆れられてました（笑）。でもこの性格のおかげで、厳しい工芸の世界でやってこれたのかもしれません。自分がやりたいことに正直であれば、他から言われることでくじけたりはしないようです（笑）。

全文はテキストサイト「note」をご覧ください！

「note 京都工芸研究会」で検索 または右のQRコードにて



第六回

4. こうげい組体操 開発商品実績ご紹介

こうげい組体操シーズン1（2024）で開発された竹工芸の細垣礼子さんの商品が、ギフトショーでの展示をきっかけに、天然素材を生かしたホテル・レストラン向けの業務用雑貨・店舗内装を扱う企業「ヤマコー株式会社」様から「料理籠」として採用されました。荘厳な佇まいはまるで芸術品のようだと評価され、前菜や向付など、こだわりの料理と組み合わせて提供する格別なおもてなしでの使用を想定されています。こうげい組体操シーズン2でも、このような新たな出会いと商品化を目指して取り組んでまいります。



事務局より

◆2025年4月～の主な予定

7月ごろ 総会

こうげい組体操ミーティング 随時